

鈴鹿市立牧田小学校 国際教室での教科学習の取組

第3学年 国語科学習指導案（いきいき教室）

I 単元 「広い言葉、せまい言葉」

II 目標

1. ことばの意味の広がりに関心を持ち、興味をもって文章を読もうとする。
(関心・意欲・態度)
2. 文章からわかったことや、写真・映像を見て気づいたことを発表したり、友だちの発表を聞いたりすることができる。
(話すこと・聞くこと)
3. まとまりや事柄の順序を考えながら、文と文の続き方に気をつけて書くことができる。
(書くこと)
4. ことばの意味の広がりについて、内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら、文章を読むことができる。
(読むこと)
5. 新出漢字を読み、書くことができる。
6. 指示語や接続語などに気をつけて文章を読むことができる。
(言語事項)

<日本語の目標>

1. 文章からわかったことや、写真・映像を見て気づいたことを日本語で話そうとする。
2. 「～です。」を使った正しい話型や「～をまとめて〇〇といます。」「〇〇の仲間です。」などを使って話そうとする。
3. 友だちの発表を聞くことができる。
(話すこと・聞くこと)
4. 「今度は」「最後に」「このようにして」など事柄の順序を表すことばにふれ、文と文の続き方に気をつけて写したり、書いたりすることができる。
5. 「～をまとめて〇〇といます。」を使い、文を写したり、書いたりすることができる。
(書くこと)
6. ことばの区切りや意味に気をつけ、内容の大よそを読むことができる。
7. 「もっと」「いちばん」「大変」などをヒントに何と比べて広い言葉なのか読み取るすることができる。
(読むこと)
8. 「トンボ」「チョウ」などのカタカナを読むことができる。
9. 助詞の「は」を正しく発音し、書くことができる。
(言語事項)

III 指導上の考察

1. 単元について

第2学年の「ようすやじゅんじょを考えよう」の学習で全体と部分の関係を考えながら順序を読み取り、第3学年で本単元で「まとまりやつなかりに気をつけよう」を学習し、第4学年で「すじ道を立てて考えよう」の学習で叙述にそって正しく読み取

る単元配列となっている。

3年生の児童は、これから生活行動範囲が広くなり、様々なことばに出会うことになる。その児童にとって、ことばの上位概念、下位概念を理解させることは、これからの語句・語彙の習得の上で大切な学習といえる。本単元では、「読むこと」「書くこと」の力を育てることをねらいとし、ことばの意味について考え、まとまりごとに大事なことを正確に読んだり、書いたりする力を身につけるように工夫されている。

本単元で扱われている動物は、児童がこれまでにいろいろ見聞きしたことのあるものが多く、興味と関心の強いものである。特に、昆虫は1学期に理科で学習し、どの児童もよく知っているものである。

本単元の文章構成を見ると、全体で13段落あり、4つの大段落からなる尾括型の文章である。せまい意味をもった言葉から、広い意味をもった言葉へと順序に従って展開されている。「シオカラトンボ・ハグロトンボ…」→「トンボ」→「こん虫」→「動物」→「生物」というように、児童の視野を広げ、論理的なものの見方、考え方を育てるような文章構成になっている。

また、写真、絵、図を参照しながら読み進めることによって、児童にとってとらえにくい抽象的な概念を理解しやすく工夫してある。

2. 児童について

いきいき教室に通級している3年生はブラジル人2名、ペルー人4名である。6名中4名は日本生まれであるが、ほとんどの児童は家庭では母語で過ごしており、学校以外では日本語にふれる機会が少ない。1年生からの編入児童（F児）、2年生からの編入児童（A児、C児）、3年生からの編入児童（E児）と編入時期が様々な児童たちである。

様々な日本語能力レベルの児童で構成されているが、学習への意欲や物事に対する興味関心は高く、いきいきと学ぼうとする様子が見られる。1年生からいきいき教室で一斉学習を行っているので、小集団で学習することには慣れてきている。授業中も他の児童の発表を聞き、そこから話を広げようとする姿が見られるようになってきた。集団で学習することにより、ことばが増え日本語でコミュニケーションをとる姿がよく見られるようになってきた児童や、在籍学級の児童との関わりが増えてきた児童も見られる。しかし、まだ理解できないことばが多いために、45分間集中して学習することが難しい児童も見られるので、児童が興味をもって取り組めるように映像や写真を使うなど手だてを工夫している。

支援シート

単元	広い言葉、せまい言葉（いきいき3年）	時数	14時間
----	--------------------	----	------

判定日	日本語能力				判定日	日本語能力			
10/7/23	聞く	話す	読む	書く	10/7/23	聞く	話す	読む	書く
A児	3	3-4	3	3	C児	2-3	2	2	2-3
B児	3-4	3-4	3	3	E児	2	2	1	1
D児	3	3-4	2-3	2-3	F児	2-3	2	2	2-3

児童について（日本語の力、経験、知識、友だちとの関わり、クラスでの様子など）

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・再来日して9か月。日本語が大好きで積極的に学習する。人前で音読したり話したりすることは苦手だが、努力するため「読む」「書く」などの日本語の力は伸びている。（A児） ・基本的な生活習慣が身についておらず宿題をやってこなかったが、2学期よりやってくるようになった。それに伴い学習用語も少しずつ習得できるようになってきた。今までの学習不足から漢字が定着していないが、本人なりにはがんばって文章を理解している。音読は上手で様子がわかるように読める。（B児） ・ゆっくりだが根気よく学習に取り組むため日本語の力も少しずつ伸びている。教師の発問の意図は理解できるが、それが読解につながっていない。きちんとした文章ではないが、自分で文章を書くことができる。（D児） | <ul style="list-style-type: none"> ・来日1年7か月。学習に前向きで日本語の力も伸びている。クラスの友だちとも少し話せるようになってきた。語彙が少ないため教師の発問が理解できないことがある。やさしく言い換えると理解し、発表することもある。（C児） ・4月に再来日。学校生活も落ち着き日本語を思い出して興味をもって学習している。やさしく言い換えると理解できることが増えてきた。ひらがな、カタカナの学習を終え、1年の漢字を学習し始めている。（E児） ・こだわりが強く、クラスの友だちとうまくいかないことがある。そのため、日本語があまり伸びなかった。2学期から落ち着いて学習に取り組むようになり、少しずつ日本語の発話が増えてきた。興味があることには集中して取り組むことができる。（F児） |
|--|--|

本時の目標

「動物」という言葉は、「こん虫」「魚」「鳥」などよりももっと広い言葉であることを知る。

日本語の目標

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ☆「～の仲間」「～をまとめて〇〇と言います。」を使い、話すことができる。（A児・B児・D児） ☆友だちの発表を聞くことができる。（A児・B児・D児） ☆「動物」は広い言葉で、「こん虫」「魚」などはせまい言葉であることを知る。（A児・B児） ☆「動物」という言葉は、「こん虫」「魚」「鳥」などよりももっと広い言葉であることがわかる。（D児） | <ul style="list-style-type: none"> ☆「～です。」を使って文章で話すことができる。（C児・E児・F児） ☆友だちの発表を聞くことができる。（C児・E児・F児） ☆箱を入れる活動を通して、「動物」は「こん虫」より広い言葉であることがわかる。（C児・E児・F児） |
|--|---|

連携で配慮すること・工夫・手立て

【在籍学級】

- ・「～です。」「～と思います。」などの表現を使って語尾まで話すよう指導する。
- ・在籍学級の中でも音読の場を設ける。
- ・いきいき教室で完成させた「ことば集め」をみんなの前で発表する場を設ける。

【指導助手】

- ・C児とE児にゆっくりやさしい日本語で指示を繰り返す。
- ・音読をする時に、読む場所を指し示したり、一緒に読んだりするなどの支援をする。
- ・箱で行う仲間分けができているかなど、活動を確認する。

準備物

- ・動物の箱 ・こん虫の箱 ・魚の箱 ・鳥の箱 ・こん虫、魚、鳥の写真数種類
- ・動物、こん虫、魚、鳥などの字カード ・ 広い、せまい などの字カード ・ レベル別プリント

3. 指導について

1学期に「めだか」（ひろがる言葉小学校国語3上）の学習で「『こん虫』は、とくにこわいてきです。」と学習した時に、「こん虫、しってる。」と言う児童が多かった。1学期に理科で学習したために「こん虫」については大体理解しているようだった。よく理解している児童は、「こん虫は、頭・むね・はらって分かれているよ。足は6本だよ。」と知っていたが、ほとんどの児童はそこまでは理解できていない。そこで、第1時にDVDを見て「こん虫」について復習してから学習に入りたいと考えている。

本単元の学習では、こん虫・動物・植物の絵本、図鑑、カルタなどを集め、児童の身近に置いて手に取ることができるようにし、事前に生物に興味をもたせてから学習に入りたいと考えている。学習中も身近に置いて手に取ることができるようにしておき、休み時間等の自由な遊びからもいろいろな生物に興味をもたせたい。本文を読むだけでは理解しきれない部分は映像や写真によって補う。

指導にあたっては、本文について、写真・映像を手がかりにしながら、内容の大よそを読むことができるようにしていきたい。説明しているところが写真のどこのことで、本文ではどこに書いてあるかを、指で確認したり、線を引いたり丸で囲んだり、一人ひとりが納得して読み進めていけるようにしたい。

また、「シオカラトンボ・ハグロトンボ…」→「トンボ」→「こん虫」→「動物」→「生物」というように、視野を広げていくために、それぞれのこん虫を箱にし、「シオカラトンボ」「ハグロトンボ」の箱をまとめて「トンボ」の箱に入れられること、「トンボ」「チョウ」「セミ」の箱をまとめて「こん虫」の箱に入れられることを、実際に体験させる。その体験により理解を助けるようにしていきたい。

内容の大よそを理解することができた段階で、「～をまとめて」「広い言葉で表すと」を使って文章を作らせる。その際、発表をしたり、プリントを活用したりしながら、文と文の続き方に気をつけて文章を完成させることができるようにしていきたい。

本單元では、「ここに」「この」「これは」「このような」「それ」などの指示語が使われている。文脈の中で、具体的に何をさしているかとらえさせ、線を引いたり矢印マークをつけたり、一人ひとりが納得して読み進めていけるようにしたい。また、「ですから」「つまり」など前の文で説明していることをまとめる接続語、「こうしてみると」などの前の段落の内容を受ける言い方の接続語にも気をつけながら、読み取っていきたい。

本単元を学習するうえで、内容が読めることが必要となってくる。本文は児童に使いなれない文末表現が多いため、理解しにくいことが予想された。そのため、使いなれた表現に書き直した要約リライトを準備した。また、保護者に毎日の家庭学習での音読練習の協力を依頼している。字を一字ずつ追いながら読んでいる児童にも、語のかたまりをとらえ、区切りを意識しながらはさみ読みで音読できるようになってほしい。文字と音が一致して読めるようになってほしいと願っている。

いきいき教室では、児童にあった日本語指導を一斉学習の中で行うことで、在籍学級の学びにつながる力を育てていこうとしている。普段から児童の共通理解をするとともに、発問の仕方など授業に参加するために必要な日本語を意識しながら授業を行

っている。在籍学級で行っている「発表の約束」をいきいき教室でも実施し、いきいき教室でも文章で発表できるように指導している。活動によっては在籍学級に戻り、友だちと学び合う時間が作れるように工夫している。そして、最終的に在籍学級に戻すことを目標としている。

B児、D児は、1年生からいきいき教室で学習しているのだが、生活経験の不足、学習経験の不足等があり、日本語の日常会話では苦勞することは少ないが、学習になると内容理解ができていないことがある。写真や映像を見せて確かめさせ、自信をもって発表させたい。A児は、性格的に恥ずかしがり屋のため発表が苦手であったが、日本語を学びたいという強い思いがあるので、がんばって発表するようになってきた。文章で発表することはまだ難しいところもあるが、A児の気持ちを大切に、支援しながら少しずつできるようにしていきたい。

C児は、日常会話はずいぶんわかるようになり、音読も支援なしに読むことができるようになったが、学習の中で使われることばがわからず困って首をかしげてしまうことがある。噛み砕いて説明をするとわかることもあるが、説明文となると発問の内容がわからず困ることが多い。ことばは聞いたことがあるのだが、それをどう言ったらよいかわからないことがあるようだ。C児の考えを聞き出してことばに直していくことが必要だろう。また、わからないことばが多く出ると集中が続かないことがある。ゆっくりやさしいことばで支援し、理解につなげる。

D児は、教師の発問が少しずつわかるようになってきたが、それに対してどう答えたらよいかわからず困っていることが多い。今何を問われているのか、何を答えればよいかを支援し、指導していく。集中力に欠けることがあるので、D児の興味づけになるものを提示し学習させる。

E児は、再来日間もないこともあり、ひらがなは読めるがまだ音と文字が一致しない。しかし、いつも前向きに音読に取り組もうとしている。その気持ちを大切に、指導者が声を出して読みその後を読ませたり、指導助手と一緒に音読させたりしてことばとして覚えてほしいと願っている。まだ、集中できる時間が短いこと、どう言ってもいいかわからないために発表できないことが多いので、映像や写真を見せて「何を言いたい」のか確かめ、どのように言ったらよいかを支援する。F児は、集中力に欠けることがあるが、興味をもてば集中することもできるし、自分が話せる範囲でがんばって話そうとするので、F児の考えを聞き出して文章にして話させたい。

A児、B児、D児は、音読も支援なしで読むことができるので、本文を確かめながら読めるように指導する。

IV 指導計画 (全14時間)

1. 犬の仲間について考える。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
2. こん虫の映像や写真を見て、こん虫のつくりについて確認する。・・・・・・ 1時間
3. ・ 第一段落を読んで、広い意味をもった言葉としての「トンボ」がわかる。・ 2時間
・ 第二段落を読んで、広い言葉としての「こん虫」についてわかる。・・・・ 2時間
・ 第三段落を読んで、「こん虫」「魚」「鳥」と「動物」の関係がわかる。・・ 2時間
(本時1/2)

- ・第四段落を読んで、「生物」についての「広い言葉・せまい言葉」の関係がわかる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間
- 4. ことばの仲間集めをする。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間
- 5. 自分が書いた「ことば集め」をみんなの前で話す。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- 6. 学習内容を身につける。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

V 本時の指導

1. 目標

「動物」という言葉は、「こん虫」「魚」「鳥」などよりももっと広い言葉であることを知る。

<日本語の目標>

- ・「～の仲間」「～をまとめて〇〇と言います。」を使い、話すことができる。
(A児・B児・D児)
- ・「～です。」を使って文章で話すことができる。
(C児・E児・F児)
- ・友だちの発表を聞くことができる。

<話すこと・聞くこと>

- ・「動物」は広い言葉で、「こん虫」「魚」などはせまい言葉であることを知る。
(A児・B児)
- ・「動物」という言葉は、「こん虫」「魚」「鳥」などよりももっと広い言葉であることがわかる。
(D児)
- ・箱を入れる活動を通して、「動物」は「こん虫」より広い言葉であることがわかる。
(C児・E児・F児)

<読むこと>

2. 準備物

教師用：動物、こん虫の仲間、魚の仲間、鳥の仲間の字カード

広い言葉、せまい言葉、 の仲間、 をまとめてなどの字カード

動物の箱

こん虫の箱、魚の箱、鳥の箱

こん虫の写真、魚の写真、鳥の写真数種類

レベル別プリント

児童用：要約リライト

教科書

3. 指導過程

学習活動	指導上の留意点	
	指導者	指導助手
1. 前時までに学習したことを思い出す。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに学習した「こん虫の仲間」の写真を見せて思い出させる。 ・こん虫の箱の中に、トンボ、セミ、チョウの仲間の箱を入れさせ、これらをこれまででできたうちで一番広い言葉で表すと「こん虫」になることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・C児、F児には、前時のことを思い出し、手を挙げて発表できるように支援したい。
2. 課題を知る。	<p>こん虫、魚、鳥よりも もっと広い言葉について考えよう。</p>	
3. 第三段落を音読する。 ・一斉読み ・指名読み	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に課題を読ませて、今日学習することを知らせる。 	
	<p>第三段落を読みましょう。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・はさみ読みを行い、他の児童にも今どこを読んでいるか確かめさせながら聞かせる。 ・A児、B児、D児には、音と語を一致させるために、語のかたまりを意識させながら聞かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・C児、F児には、ことばをはっきり正しく、読点の後には間を空けてゆっくり読むように指導する。特に、C児には大きな声で読むように指導する。 ・E児には、今読んでいる場所を指し示したり、一緒に読んだりして読み方を支援する。
4. こん虫、魚、鳥の仲間をまとめていう言葉について考える。	<p>キンギョを広い言葉で表すと、何の仲間になりますか。</p>	
	<p>ニワトリを広い言葉で表すと、何の仲間になりますか。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・キンギョ、メダカなど数種類の魚カードをまとめて何というか考えさせ、にわとり、ハトなども同じように考えさせる。 ・A児、B児には、文章で話せるように指導したい。「～をまとめて〇〇といいます。」「〇〇の仲間です。」などのことば 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の発問が理解しにくいC児、E児には、今何のことを話しているのか説明するなど、個別に関わる。 ・C児、E児、F児には実際のカードをまとめることで、「〇〇の仲間」であることをわからせたい。その時に「～をまとめて〇〇と

を使って話させたい。文章で話せた時にはほめて次への自信につなげたい。D児、F児は、単語で話すことが多いので、「～です。」と文章で発表できるように支援する。

- ・ F児には写真をもとに細かく問いかけ、F児の考えを文に組み立てながら発言させる。
- ・ 確かめたことばは、図式化してわかりやすく板書する。
- ・ そのことばに関する部分をもう一度音読し、確認する。そして、本文では、そのことばがどこに書いてあるか線を引いて確かめさせる。

いいます」ということを知らせたい。

こん虫、魚、鳥をもっと広い言葉でまとめると、何になりますか。

- ・ 今までで一番大きな箱に入れることで、「こん虫の仲間」「魚の仲間」「鳥の仲間」と比べて「もっと広い」言葉だということを感じ取らせたい。
- ・ 「動物」ということばを知らない児童には、新しいことばとして教える。
- ・ 黒板に「動物」「こん虫の仲間」「魚の仲間」「鳥の仲間」などの字カードを貼らせ、図式化して「広い言葉」「せまい言葉」をわからせたい。

- ・ C児、E児、F児には、箱を大きな箱に入れる作業を通して「もっと広い」ということを感じ取らせたい。
- ・ C児、F児には「動物」と「こん虫」はどちらが広い言葉で、せまい言葉か確かめる。

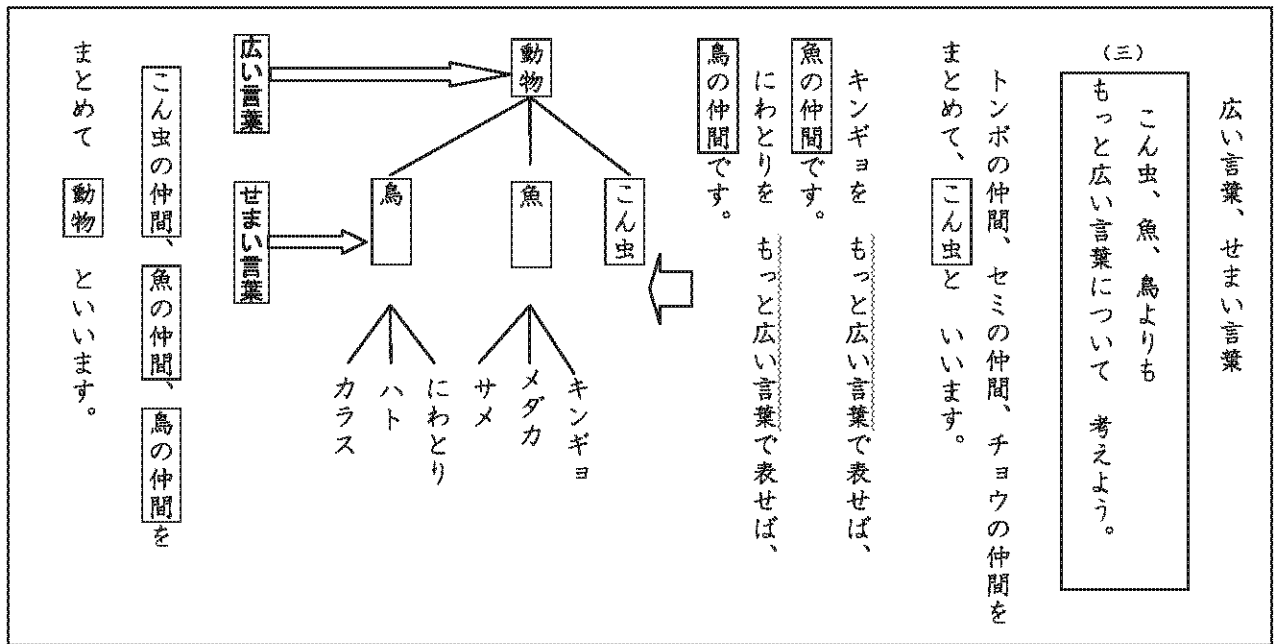
5. 学習したことをふり返り、プリントにまとめる。

今日勉強したことをプリントにまとめましょう。

- ・ A児、B児、D児には、学んだことばがどこを指しているのか本文を確かめながら自分で記入させたい。A児は、プリントに記入する際に自信がなく、教師に頼りたがるので、一つずつ確認しながら書けるように声かけをする。

- ・ C児、E児、F児には黒板をもとに何を書いたらよいか支援する。その際、不要なことばまで記入していないか、確かめるように指導する。

4. 板書計画



鈴鹿市立牧田小学校 在籍学級での教科学習の取組

第4学年 算数科学習指導案

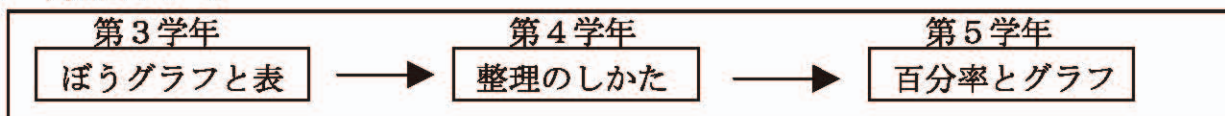
I 単元 「記録を見やすく整理しよう」

II 目標

1. 目的に応じて資料を工夫して分類整理しようとする。 (関心・意欲・態度)
2. 表にまとめた記録を見やすく整理する方法を工夫して考える。(数学的な思考)
3. 資料を2つの観点から分類整理して二次元表に表したり、その表から資料の特徴を読み取ったりすることができる。 (表現・処理)
4. 資料を2つの観点から分類整理して、それをまとめた二次元表の表し方や読み取り方を理解する。 (知識・理解)

III 指導上の考察

1. 単元について



この単元の学習のねらいはデータ(資料)をもとに単に表を作ったり、読んだりすることではない。ものごとを正しく判断するためにはどうしたらよいのか、さらに、今まで見逃していたことに注目させ、それらを統計的な手法で考えてみるとさまざまなことがわかってくる。そういうことに着目させ、気づかせていくことが最も大切なのである。つまり、児童たちがデータを見る目を豊かにしていくことである。

第1、2学年では、多くのものを分類して数えて、その結果を一次元表にまとめ、その傾向や特徴をとらえることを指導している。

また、第3学年では、月別のけがをした人数とけがの種類といった簡単な観点の資料を、落ちや重なりがないように分類することを指導している。しかし、そこでは学年的な発達段階を考慮して、1つの観点からの項目は、児童に資料の落ちや重なりがないように決定させるが、他の観点からの項目ははじめから決まっている素材を取り上げている。また、表をまとめるにあたって、項目が同じいくつかの一次元表にまとめて、それを二次元表に整理するといった程度にとどめるように配慮している。

第4学年の本単元では、これらの学習をさらに発展させて、2つの観点から、それぞれいくつかの項目を決めて、資料の落ちや重なりがないように分類整理する段階に指導を進める。

2. 児童について

全体として学習には熱心に取り組み、休み時間は外で元気に遊ぶ、にぎやかで元気な学級である。

算数科では、理由を説明するなど、数学的な考え方を問われると挙手の数が少なくなるが、自分の考えをみんなの前で堂々と発表できる子も何人かいて、その子たちの影響を受け、発表も少しずつ増えてきている。「角の大きさ」の学習の時には、ミニ定規を使って、まっすぐな線をひくことが苦手な児童が何人かいた。作業のていねいさに欠ける児童が何人かいたので、本単元では1項目ずつていねいに分類整理させたい。自分のことで精一杯の子もいるが、学習中にわからなくて困っている子がいると声をかけ合うなど、子どもどうしの学び合いも芽生えてきている。

27名のうち、外国人児童は5名で、そのうち3名はJSLバンドスケールの判定結果も6-7と高く、日本語で学習を進めることができる。1名は2学期初めにインドネシアから来日した児童である。日本の子も外国の子も分け隔てなく活動し、休み時間には学級遊びを計画するなど、みんなでなかよくしようとする気持ちが感じられる。

支援シート

単元		記録を見やすく整理しよう（４年）				時数		５時間	
A児					B児				
日本語能力					日本語能力				
判定日	聞く	話す	読む	書く	判定日	聞く	話す	読む	書く
10/2/16	6	5	4	4	10/2/16	6	6-7	6	5-6
10/7/22	6	5-6	5	4	10/7/22	6	6-7	6	6-7
児童について（日本語の力、経験、知識、友だちとの関わり、クラスでの様子など）									
<ul style="list-style-type: none"> 日本語でのやりとりはできるが、漢字を読んだり書いたりすることが苦手である。 休み時間は母語の通じる異学年の友だちや、学級の友だちとなかよく遊んでいる。 授業態度はまじめで、自信があることには挙手して発表できる。 家庭では母語を使っている。 					<ul style="list-style-type: none"> 日本生まれで入学当初から在籍学級で学習している。日本語のやりとりは十分できるが、語彙不足が感じられる。難しい日本語については説明を求めることが多い。 B児はスペイン語を話せないので母親との会話は日本語がわかる姉が通訳している。 授業中の発表は少ない。 				
【算数】					【算数】				
<ul style="list-style-type: none"> 週に一度、いきいき教室で算数の取り出し授業を行っている。 問題の意味を理解するのに時間がかかる。 					<ul style="list-style-type: none"> 四則計算はほぼできるが時間がかかる。 問題の意味が理解できないことがある。 				
【レディネステスト】					【レディネステスト】				
<ul style="list-style-type: none"> 一次元表は読み取れるが、合計を求めることができない。 					<ul style="list-style-type: none"> 一次元表を読み取ったり、整理したりすることはできる。 				
本時の目標									
「正」の字を使って、事故調べの表をもとに「事故にあった学年」、「事故の発生した場所」の観点から、二次元表に表すことができ、何年生にどんな事故が多かったかを読み取ることができる。									
<ul style="list-style-type: none"> 「事故にあった学年」と「事故の発生した場所」の観点から二次元表に表すことができる。 支援を受けて、二次元表を読み取ることができる。 					<ul style="list-style-type: none"> 「事故にあった学年」と「事故の発生した場所」の観点から二次元表に表すことができる。 二次元表を読み取り、発表することができる。 				
日本語の目標									
<ul style="list-style-type: none"> ☆二次元表を見て、わかったことをノートに書くことができる。 ☆「いちばん」「にばんめに」ということばを使って発表できる。 					<ul style="list-style-type: none"> ☆二次元表の表し方を理解する。 ☆ノートを見て、「〇年生が〇〇〇での事故が〇〇〇多いです。」と発表することができる。 				

連携で配慮すること・工夫・手立て	
<p>【いきいき担当】(算数：1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り出し授業で「正」の字を使って数を数える方法を復習する。 ・取り出し授業で事故にあった場所(交差点、横断歩道)のことばの意味を確認する。 <p>【ボランティア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてヒントカードを用いて支援する。 	<p>【ボランティア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題が理解できているか確認する。 ・二次元表の表し方を支援する。 ・必要に応じてヒントカードを用いて支援する。
準備物	
<ul style="list-style-type: none"> ・ルビふりプリント ・事故調べの表(ルビあり) ・ヒントカード 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルビふりプリント ・事故調べの表(ルビあり) ・「ヒントカード

3. 指導について

① 課題・問題について

本時の課題を以下のように設定した。

「事故にあった学年と事故の発生した場所の2つのことがらを1つの表に表そう。」

教科書では、学校で発生したけが調べをもとに展開されているが、私たちは、社会科の学習「事故・事件に気をつけよう」と関連づけて鈴鹿市内の事故発生回数をもとに学年別、場所別、曜日別、けがの種類別の一次元表をもとに、2つの表をどのようにしたら1つの表にまとめることができるのかを考えさせることにした。子どもたちにとってより身近な課題とするために、問題を以下のように設定した。

「何年生がどこで事故にあったか、調べよう。」

実際に1学期には、本校の4年生でも一件の飛び出しによる事故があった。交通事故をなくすことは、子どもたちの命を守るために重要な課題であり、確かなデータに基づいて調べる価値のあるものであるととらえている。そして、子どもたちに目的意識をもたせるために、そこから気づいたことやわかったことなどをポスターセッション形式で、牧田小学校の全学級に呼びかける計画をしている。

② 操作活動について

事故にあった学年や事故の発生した場所、けがの種類、曜日についての記録を見て、どのようにしたらわかりやすく、見やすく整理できるのかを考えさせたい。3年生で学習した「正」の字を使った表し方については学習しているが、混乱を避けるために、事故にあった学年と事故の発生した場所、けがの種類、曜日の項目が書いてある付箋とそれを貼る模造紙を用意し、それを一つ一つ整理させたい。事故にあった学年を中

心に分けていく方法と事故の発生した場所、けがの種類、曜日を中心に分けていく方法が考えられ、どの方法も認めていきたい。また、観点別に分けてから、さらに項目別に整理することによって、より見やすくなることに気づかせたい。

事故の場所の種類「交差点」「横断歩道」「路上」などについては、社会科の学習のなかで視点児童にもわかるように実際にその場所に足を運び、理解させるとともに、そこでどんな事故が起こるのかも想起させたい。また、「路上」は「道路」と読み換えて指導することにした。各学級には外国人児童が在籍し、「交差点」など、漢字が並ぶだけで抵抗を感じる事が予想される。実際にその場所に行き、視覚的にとらえ、教室で事故の動作化をするなど体験的な活動を重視して確かな知識へと導きたい。

このように算数科だけで学習するより、他の教科と関連づけながら学習を進めた方が意識を連続させることができ、子どもにとっても活動が深まり、本質的な目標に迫ることができる。他の教科の学習内容を単に導入素材として生かすだけでなく、算数科で学習したことを他の教科の学習、あるいは普段の学校生活の場面で生きて働くようにすることも重要である。

③ 授業で配慮すること

外国人児童（視点児童）の中には助詞が的確に使えない児童もいる。そこで、「ヒントカード」を準備し、簡潔で正しい日本語を指導したい。また、日本語を話す不安から発表を苦手とする児童もいるので、個に応じたヒントカードをタイムリーに活用し、支援することで発表への抵抗をなくし、自信へとつなげたい。

ヒントカード（例・1組）

○年生は、○○○での事故がいちばん多いです。

○年生は、○○○での事故がにばんめに多いです。

いきいき教室では「正」の字を使って、交通事故調べの一次元表の表し方を復習する。事前に一次元表の復習をすることによって、本時の2つの項目を観点別に分ける方法、「正」の字を使った表し方などがスムーズに学習できると考えられる。

ボランティアは、普段は支援が必要な子に対して個々に対応しているが、本時では視点児童を中心に支援する。また、本単元に入る前に個に応じた支援の方法をボランティアに伝える連絡会をもちたい。

IV 指導計画（全5時間）

1. 整理のしかたについてわかる。（4時間）

- ・資料を2つの観点から分類する方法を理解する。．．．．．1時間
- ・二次元表の表し方、読み取り方を理解する。．．．．．1時間（本時）
- ・異なる観点から二次元表に表すことを理解する。．．．．．1時間
- ・2つの分類項目をもつ資料を2つの観点から分類整理する方法や、4つの項目に分類整理する方法を理解する。．．．．．1時間

2. まとめ（1時間）

V 本時の指導

1. 目標

「正」の字を使って、事故調べの表をもとに「事故にあった学年」、「事故の発生した場所」の観点から、二次元表に表すことができ、何年生にどんな事故が多かったかを読み取ることができる。

2. 視点児童の目標（☆は日本語の目標）

A児・「事故にあった学年」と「事故の発生した場所」の観点から二次元表に表すことができる。

・支援を受けて、二次元表を読み取ることができる。

☆二次元表を見て、わかったことをノートに書くことができる。

☆「いちばん」「にばんめに」ということばを使って発表できる。

B児・「事故にあった学年」と「事故の発生した場所」の観点から二次元表に表すことができる。

・二次元表を読み取り、発表することができる。

☆二次元表の表し方を理解する。

☆ノートを見て、「〇年生が〇〇〇の事故が〇〇〇多いです。」と発表することができる。

3. 準備物

教師用：二次元表のプリントの拡大図

児童用：交通事故の項目別付箋紙、模造紙、二次元表のプリント、ヒントカード、交通事故調べの表

4. 指導過程

時間	学習活動	指導上の留意点	
		指導者	視点児童への支援
15	1. 事故調べの内容を項目別に分ける。	<p>何年生がどこで事故にあったか、調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで模造紙に付箋を貼っていく作業をさせる。 ・学年でまとめて並べると、何年生にどんな事故があったかがよくわかることに気づかせたい。 ・事故の場所の理解については社会の時間に学習したが、黒板に写真を貼ってわかりやすくしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に参加できるように声かけをする。
	2. 事故調べの表を見て、二次元表に表す。	<p>事故にあった学年と場所の2つのことがらを1つの表に表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次元表の表し方には上から順番に整理していく方法と学年別に整理していく方法の2つがあることに気づかせる。 ・落ちや重なりがないように「正」の字を使って記録させる。 ・作業が遅れている児童には机間指導をして、個別に支援をする。 ・表し方がわからない児童には、1つの観点を中心にまとめる方が分類整理しやすいということを伝える。 ・印をつけていけば落ちや重なりなく、整理できることを知らせる。 ・早く作業が終わった児童には同じグループで遅れている子の手助けを促す。 ・合計があわないときは、落ちや重なりがあったことに気づかせる。 ・書き終わったら、みんなで項目別の数を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題意をとらえられるように声かけをする。 ・1項目ずつ、ていねいに作業するように支援をする。(A児) ・作業の進み具合を確認する。(B児) ・正しく分類できているか確認する。
15			

10	3. 二次元表から読み取ったことを発表する。	<p>作った表を見て、わかったことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習した一次元表と比べて、二次元表では、学年と事故の発生した場所の2つが見ただけでわかるということをおさえない。 ・考えが浮かびにくい児童には「〇年生が〇〇〇での事故が多かったか」など、観点を2つあげることによって読み取らせたい。 ・ノートに書いたことを発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてヒントカードを用いて支援する。(A児)
	5	4. 算数日記を書く。	<p>算数日記を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習でわかったことや、思ったことなどをノートに書かせ、学習のふり返りをする。

5. 板書計画

何年生がどこで事故にあったか、調べよう。

事故にあった学年と事故の発生した場所を1つの表に表しましょう。

	道路	交差点	駅前	児童館	合計
1	6	2	2	1	11
2	3	4			7
3		1	1	3	5
4	2	1	1	1	5
5			1		1
6	1				1
合計	12	8	5	5	30

表の表し方

- ・しるしをつけた。
- ・じゅんばんにかぞえた。

わかったこと・気づいたこと

- ・1・2年生は道路や交差点の事故が多い。
- ・5・6年生は事故が少ない。
- ・4年生は5件の事故をしている。
- ・高学年ほど事故が少ない。

鈴鹿市立牧田小学校 在籍学級での教科学習の取組

第5学年 算数科学習指導案

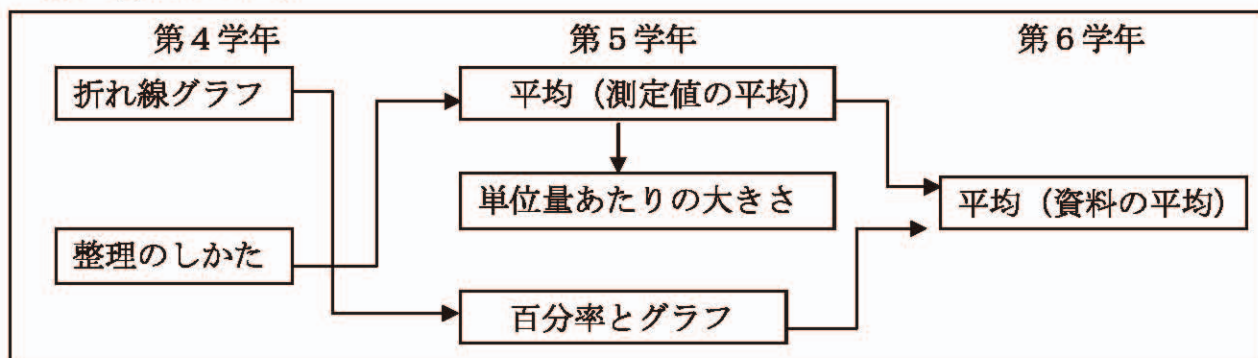
I 単元 「比べ方を考えよう」

II 目標

1. 平均のよさに気づき、生活に生かそうとする。
単位量あたりの考え方をを用いると、数値化して比較できることのよさに気づき、生活に生かそうとする。 (関心・意欲・態度)
2. 「ならず」ことを通し数量を理想化してとらえ、平均の意味について考える。
異種の二量について、どちらかの単位量にそろえるとよいことに気づき、表し方や比べ方を考える。 (数学的な思考)
3. 平均を計算で求めることができる。
単位量あたりの考えを用いて、混み具合や身の回りの数量を比較することができる。 (表現・処理)
4. 平均や異種の二量の割合について、意味とその求め方を理解する。 (知識・理解)

III 指導上の考察

1. 単元について



この単元を学習するにあたり、統計的な見方・考え方の素地が必要である。統計的な見方・考え方とは、集団を一つの集合と考えたとき、その集団の特徴や全体的な傾向を把握することである。表やグラフに関しては、第2学年で、簡単な事柄を整理して、表やグラフの形に表したり、それらを読んだりすることを学習してきている。さらに、第3学年と第4学年においては、資料の分類整理をしたり、棒グラフや折れ線グラフに表したりすることを学習してきている。

平均の学習において「ならず」ことは不可欠な操作であるが、子どもたちにとっては耳慣れないことばである。そこで、子どもたちの生活の中にみられる「ならず」必要性のある事象を取り上げて、その意味を理解させることによって、本単元の学習に結びつけていくようにしていく。

平均には、測定値としての平均と代表値としての平均（資料の平均）の二つがあ

る。第5学年では、測定値としての平均を学習する。測定値については、これまでに、長さ、かさ、重さ、時間について扱ってきている。しかし、実際に測定する場合、誤差が生じてしまう。この測定値をより正確なものにする方法として、何回か測定し、その平均を求める方法がある。また、ある集団の統計的な資料の特徴を一つの数で表そうとする考えが、代表値としての平均（資料の平均）である。この学習内容については第6学年で学習する。

平均の考え方は、この後の単位量あたりの計算に活用される。単位量あたりの考えは、第2学年の乗法の導入、第3学年の除法の導入などで扱ってきている。また、第5学年で、小数倍の意味、同種の量の割合の学習を行ってきている。本単元では、異種の二量の割合を次のような順序と方法で学習させていく。

- 1、面積、人数が異なる場合の混み具合の比べ方を理解する。
- 2、「人口密度」の意味とその求め方を理解する。
- 3、単位量あたりの大きさとその使い方を理解する。
- 4、学習内容を確実に身につける。

本単元の発展的な内容として、身の回りから平均や単位量あたりの考えを使っている場面を見つけさせたい。

2. 児童について

全体的に、学習にはまじめで課題に対して前向きに取り組んでいるが、理解に時間がかかる児童が多い。しかし、わからないことを教えてほしいと言ってくるなど努力しようとする姿が見られる。算数の学習中にも、わかったことは挙手して発表しようとしているが、結果を導き出した理由を説明したり、友だちの考えに対して意見を言ったりすることは、まだまだ難しい。

また、外国につながりをもつ児童が8名いる。その中で6名は、日常会話には困っていない。しかし、漢字テストが苦手だったり、テストの問題の意味や答え方がわからずに質問してきたりするなど、ことばの理解が学習の壁になっていると思われる。また、残りの2名は言いたいことがうまく伝えられない様子が見られ、週6時間日本語指導教室で学習している。課題の意味がわからない、発表する際に自信をもてないといった様子も見られたので、具体物や半具体物を提示しながら課題のイメージをつかませたり、発問を工夫したりしてきた。友だちの励ましもあって、少しずつ算数の学習にも集中して取り組めるようになり、発言も増えてきている。

【レディネステスト】

ウサギが食べた日によって異なるニンジンの本数を、同じように食べたとすると一日に何本食べたことになるかと問う問題は、間違えた児童が非常に多かった。問題の意味がつかめない、つかめても答えを導けない児童が多かったが、同じような問題であっても挿絵が描かれていると、それを手がかりにして答えを導くことのできた児童が多くなった。

レディネステスト

① 次の計算をしましょう。

【1】 $7.4 + 8.9$

【2】 $10.3 + 6.8$

【3】 $8.1 + 5.7 + 6.9$

【4】 $22.8 \div 3$

【5】 $55.2 \div 6$

② 大きい方に○をつけましょう。

【 10.3 9.9 】

【 7.9 8.1 】

【 4.5 5.4 】

③ 次の問題に答えましょう。

牧田まき小学校しょうがっこうのウサギのウサコは、
月曜日げつようびにニンジンにんじんを5本、火曜日かようびは
10本、水曜日すいようびは6本た食べました。

ウサコが毎日まいにち同じようにニンジンにんじんを
食べたたとすると、一日いちにちに何本なんぼん食べたこ
とになりますか。

(答え) _____ 本

④ 次の問題に答えましょう。

つみ木が5だん、7だん、4だん、
8だんたかつまれています。つみ木のたか高さ
を同じおなにそろえると、何だんだんずつにな
りますか。

(答え) _____ だん

支援シート

単元		比べ方を考えよう（5年）					時数		12時間	
A児					B児					
日本語能力					日本語能力					
判定日	聞く	話す	読む	書く	判定日	聞く	話す	読む	書く	
10/2/12	3-4	4	3	3	10/2/12	7	7	6	6	
10/7/21	3-4	4	3-4	3-4	10/7/21	5	5-6	4-5	4	
児童について（日本語の力、経験、知識、友だちとの関わり、クラスでの様子など）										
<ul style="list-style-type: none"> 家庭では、スペイン語で会話している。 日本語指導教室に、週6時間通級している。 クラスの友だちとの関わりもあるが、休み時間は、外国人の友だちとサッカーをすることが多い。 言いたいことを日本語で伝えようとするが、語彙が少なく、相手にうまく伝わりにくい。 					<ul style="list-style-type: none"> 母親はフィリピン国籍、本人は日本国籍であり、家庭ではタガログ語、日本語の両方が使われている。 日常の友だちや教師との会話には困っていない。 学習にはまじめに取り組むが、定着しない。 漢字交じりの文章を読んだり書いたりすることは苦手である。 					
【算数】 <ul style="list-style-type: none"> わかりにくい時には、具体物で示してやると問題の意味を理解しやすいようである。 文章題は難しく感じているようであるが、学習には意欲的に取り組んでいる。 自分の考えを書いたり、伝えたりすることは苦手である。 					【算数】 <ul style="list-style-type: none"> たし算やひき算は、指を使っておこなう。 かけ算の筆算のやり方は理解してきたが、わり算は個別支援が必要である。 問題の意味が理解できずにつまずいてしまう場合がある。 算数に対する苦手意識が強い。 					
【レディネステスト】 <ul style="list-style-type: none"> 挿絵のない文章問題は意味がつかめず、できなかったが、挿絵のある問題はそれを手がかりにして、答えを導いていた。 					【レディネステスト】 <ul style="list-style-type: none"> ウサギが食べた、日によって異なるニンジンの本数をならす問題は、意味がわかっていなかった。挿絵があり、積み木の高さをそろえる問題もできなかった。 					
本時の目標										
均等でないリレーのチームの人数を操作活動や計算を通して、「ならす」方法を考え、計算で求める便利さに気づくことができる。										
<ul style="list-style-type: none"> 支援を受けて本時の課題を理解し、自分で解決しようとする。 計算で求めた方が便利な場合があることに気づく。 					<ul style="list-style-type: none"> 支援を受けて本時の課題を理解し、解決しようとする。 計算で求めた方が便利な場合があることに気づく。 					
日本語の目標										
<ul style="list-style-type: none"> ☆自分の考えた解決方法を支援を受けて、ノートに書くことができる。 ☆数量を「ならす」という意味を活動と結びつけて理解することができる。 					<ul style="list-style-type: none"> ☆解決方法を自分なりの書き方で、ノートに書くことができる。 ☆数量を「ならす」という意味を活動と結びつけて理解することができる。 					
連携で配慮すること・工夫・手立て										
【いきいき担当】（国語：6時間） <ul style="list-style-type: none"> 「ならす」「そろえる」「合計」といったことばの意味を確認しておく。 【ボランティア】 <ul style="list-style-type: none"> 課題が理解できているか確認する。 解決方法にとまどっていれば、アドバイスする。 ノートへの書き方をアドバイスする。 					【ボランティア】 <ul style="list-style-type: none"> 課題が理解できているか確認する。 解決方法にとまどっていれば、おはじきと支援プリントを与えてアドバイスする。 ノートへの書き方をアドバイスする。 					
準備物										
<ul style="list-style-type: none"> リレーの写真 参考になる算数ノートのコピー （必要に応じて、おはじきと操作用プリント） 					<ul style="list-style-type: none"> おはじき おはじき操作用プリント 					

3. 指導について

① 課題・問題について

本時の課題を次のように設定した。

第1時

リレーチームの人数をならしてそろえるとする、1チームは何人ずつになるでしょう。

第2時

リレーのチームのメンバーの平均タイムを求めましょう。

第一小単元では、平均について学習する。平均の学習の導入において、「ならす」ことは不可欠な操作である。ジュースを多い方から少ない方へ移したり、でこぼこの地面を平らにしたりといった活動は、子どもたちは日常生活において何度か経験している。しかし、具体物を離れた数量の操作としての「ならす」活動は、子どもたちにとって経験が少なくとらえにくいと思われる。レディネステストでも、多くの児童が「もし、毎日同じ量だとしたら」という前提のもとに尋ねた問題の意味がつかめなかったり、答えを導くことができなかつたりしていた。

そこで導入の題材として、リレーを取り上げたい。リレーは、子どもたちにとって身近で大好きな活動である。運動会の団体競技でも、全員リレーを行っており、具体的な場面をイメージしやすいと思われる。リレーを楽しむためには、まず、チームの人数をそろえる操作を行う必要がある。第1時では、リレーのチームの人数が、欠席者により均等でなくなった場合を設定することで、人数をそろえなければならない必要性を与えたい。そのような設定にすることで、自分たちの体験をふまえて「ならす」活動をとらえやすいと考え、課題を「チームの人数をならしてそろえるとする、1チームは何人ずつになるでしょう」とした。

また、チームごとのタイムのバランスが整っている方がリレーは盛り上がる。1学期に50メートル走をした時には、自分の以前の記録や友だちの記録と比べるために、タイムに関心をもつ子どもたちの姿が見られた。そこで、第2時には「次に、タイムのバランスを考えてリレーのチームをつくろう」と呼びかける。こうして、平均タイムを求める必要性を与え解決させていくことによって、平均のよさに気づかせたり、日常生活と算数学習のつながりを認識させたりしたい。そして、学習のまとめの段階では、様々な問題に取り組みさせる中で、その他の日常生活の場面でも、平均の考えが用いられていることに気づかせたい。

さらに、この学習の発展として、以前実施した全校体力テストの平均を全国平均と比べることで、自分たちの体力づくりを見直す機会とし、全校にも発信していきたい。

② 操作活動と視覚的な補助について

第1時では、子どもたちに課題のイメージをより確かなものとするために、課題の場面を想起させるための写真を用意したい。レディネステストでは、積木の挿絵を手がかりにして答えを導いた児童が多かった。そのため、視覚支援の必要性を感じたので、黒板にチーム別の人数を教師用おはじきでグラフのように提示したい。そして、解決の見通しをたてさせ、自力解決を図らせるが、とまどっている児童に

は、黒板を参考にしながら自分で操作できる児童用おはじきとおはじき操作用プリントを与え、それをもとに考えさせたい。第1時では、数量の操作における「ならず」という意味を確かなものとしたい。

また、ノートへ自分の考えを書く場面でとまどった場合には、今までのノートを見てふり返らせたり、友だちのノートのコピーを参考にさせたりしたい。

③ 授業で配慮すること

第2時では、前時の学習内容をもとに、平均の意味と計算での求め方をおさえる。メンバーそれぞれの数回の測定記録をもとに、平均タイムをまず自力解決で求めさせたい。その際、自力解決が困難な児童も予想されるので、平均を求める過程が順序立ててわかるような支援プリントも用意しておきたい。

その後、班活動を行わせたい。レディネステストで計算に課題が残る児童も見られたので、班の友だちと確かめ合わせたり、班活動の中で別の便利な求め方を出し合わせたりさせたい。

このように、友だちに自分の考えを聞いてもらうことで、自信をもって発表できる手立てとしたい。

この学習を通して、計算による平均の求め方を理解させるが、場合によっては、計算よりも多い数から少ない数へ移動させる方法、仮平均で求める方法も便利であることを知らせ、実生活の場面で活用できるようにさせたい。

その他、授業に集中できない児童や、ことばの支援が必要な児童には、友だちとの学び合いの場や、学習ボランティアによる支援を通して、安心して授業に参加できるようにさせたい。この平均の単元でも、いきいき教室に通級している外国人児童にとっては理解が難しいことばがいくつか見られる。「ならず」ということばは、各学級で実際の活動を通しておさえておくが、他にも「そろえる」「平均」「合計」といった特にこの学習で必要と思われることばは、いきいき教室とも連携して学習を進めていきたい。また、授業の中では、自分の考えを絵や図、既習内容を使って説明する活動がある。そんな場面の中で、まとめ方や話し方を学ばせたい。

IV 指導計画（全12時間）

(1) 平均（5時間）

1. 「平均」の意味と、求め方を理解する。（2時間）

- ・「ならず」ことの内容や、ならした量を計算で求める方法を考える。・・・1時間
(2組、3組 本時)
- ・平均を求める問題の解決を通して、平均の意味や求め方を理解する。・・・1時間
(1組 本時)

2. 平均から全体量を求める方法を理解する。（1時間）

3. 数値に0が入る場合の平均や平均の数値が小数になる場合を理解する。（1時間）

4. 学習内容を確実に身につける。（1時間）

(2) 単位量あたりの大きさ（6時間）

(3) まとめ（1時間）

V 本時の指導

1. 目標

均等でないリレーのチームの人数を、操作活動や計算を通して、「ならず」方法を考え、計算で求める便利さに気づくことができる。

2. 視点児童の目標（☆は日本語の目標）

A児・支援を受けて、本時の課題を理解し、自分で解決しようとする。

・計算で求めた方が便利な場合があることに気づく。

☆自分の考えた解決方法を、支援を受けてノートに書くことができる。

☆数量を「ならず」という意味を、活動と結びつけて理解することができる。

B児・支援を受けて、本時の課題を理解し、解決しようとする。

・計算で求めた方が便利な場合があることに気づく。

☆解決方法を自分なりの書き方で、ノートに書くことができる。

☆数量を「ならず」という意味を、活動と結びつけて理解することができる。

3. 準備物

教師用：チーム別の人数表、提示用おはじき

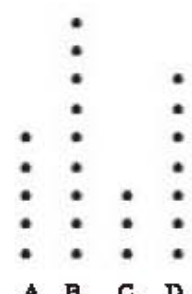
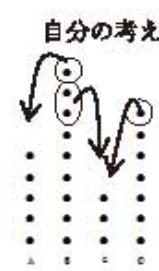
児童用：おはじき、おはじき操作用プリント、参考になる算数ノートのコピー

4. 指導過程

時間	学習活動	指導上の留意点																
		指導者	視点児童への支援															
10	1. 学習課題をとらえ解決の見通しをたてる。 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th colspan="5">チーム別人数表</th> </tr> <tr> <th>チーム</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>5</td> <td>9</td> <td>3</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>	チーム別人数表					チーム	A	B	C	D	人数	5	9	3	7	リレーのチームの人数をそろえましょう。 ・左のようなリレーのチーム別人数表を提示し「気がついたことはありませんか。」と尋ねると、児童は、チームの数が4チームあることや、人数がそろっていないことに気づくであろう。そこで、今回は同じ子が2回以上走るということはせずに、4つのチームの人数をそろえることを知らせる。	・運動会のリレーの時の写真を用意し、課題の場面を想起させる。 ・黒板におはじきで、チーム別の人数をグラフのように提示する。
		チーム別人数表																
チーム	A	B	C	D														
人数	5	9	3	7														
リレーのチームの人数をならしてそろえるとすると、1チームは何人ずつになるでしょう。 ・ジュースなどをならした体験を思い	・A児には「な																	

		<p>出させ、課題の意図を理解させる手立てとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1チームの人数がおよそ何人くらいになりそうか見当をつけさせ、解決方法について尋ねると、移動させてならす方法、計算で求める方法が出てくるであろう。 	<p>らす」「そろえる」ということばが理解できているか確認する。</p>
15	<p>2. 課題を自力解決する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ノートに自分の考えを書かせるが、解決の見通しがたたない児童には、おはじきと操作のための支援プリントを与え、それをもとにどのようにすればよいか考えさせたい。 絵や図をかいて移動させて考える方法、または、計算で求める方法で解決すると思われるが、一つの方法で解決することができたら、別の方法でも考えさせるようにする。 机間指導をしながら、それぞれの解き方を把握し、何人かを指名して黒板に考えを書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて課題の「ならしてそろえる」の補足説明や、おはじきを使った方法のアドバイスをする。 A児には、参考になる書き方のコピーなどを使ってノートへの書き方をアドバイスする。
15	<p>3. それぞれの考えを 発表し、検討する。</p>	<p>どのように考えたのか発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「はじめに」「次に」などのことばをできるだけ使って発表させる。 どの方法でも、解決できることに気づかせ、それぞれの方法のよさを考えさせると、絵や図をかいて移動させる方法がわかりやすいと考える児童が多いと思われる。そこで、計算でも「ならす」ことができることをおさえたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、補足説明をする。 友だちの発表や教師の説明を集中して聞けるように支援する。
5	<p>4. 類題を与える。</p> <p>5. 算数日記を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 類題を与え、タイムをならす場合は、計算で求める方法が便利であることに気づかせる。 <p>学習をふり返り、感想を書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 理解できているかを確認する。
5		<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習でわかったことや、思ったことなどをノートに書かせる。 	

5. 板書計画

運動会の全員 リレーの人数	リレーのチームの人数をならしてそろえるとする、 1チームは何人ずつになるでしょう。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="3">50mのタイム</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回目</th> <th>3回目</th> </tr> <tr> <td>9.5</td> <td>9.8</td> <td>8.2</td> </tr> </table>	50mのタイム			1回目	2回目	3回目	9.5	9.8	8.2	ならしてそろえると ↓ 計算が便利				
50mのタイム																
1回目	2回目	3回目														
9.5	9.8	8.2														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="5">チーム別人数表</th> </tr> <tr> <th>チーム</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <th>人数</th> <td>6</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>7</td> </tr> </table> <p style="margin-top: 10px;"> <u>答え 6人</u> </p>	チーム別人数表					チーム	A	B	C	D	人数	6	9	8	7	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>A B C D</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>自分の考え</p>  <p><u>答え 6人</u></p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>6+9+8+7=34</p> <p>34÷4=8</p> <p><u>答え 8人</u></p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>Cチームの8人をもとにする</p> <p>8+9+8+4=29</p> <p>12+4=8</p> <p>8+8=8</p> <p><u>答え 8人</u></p> </div> </div>
チーム別人数表																
チーム	A	B	C	D												
人数	6	9	8	7												

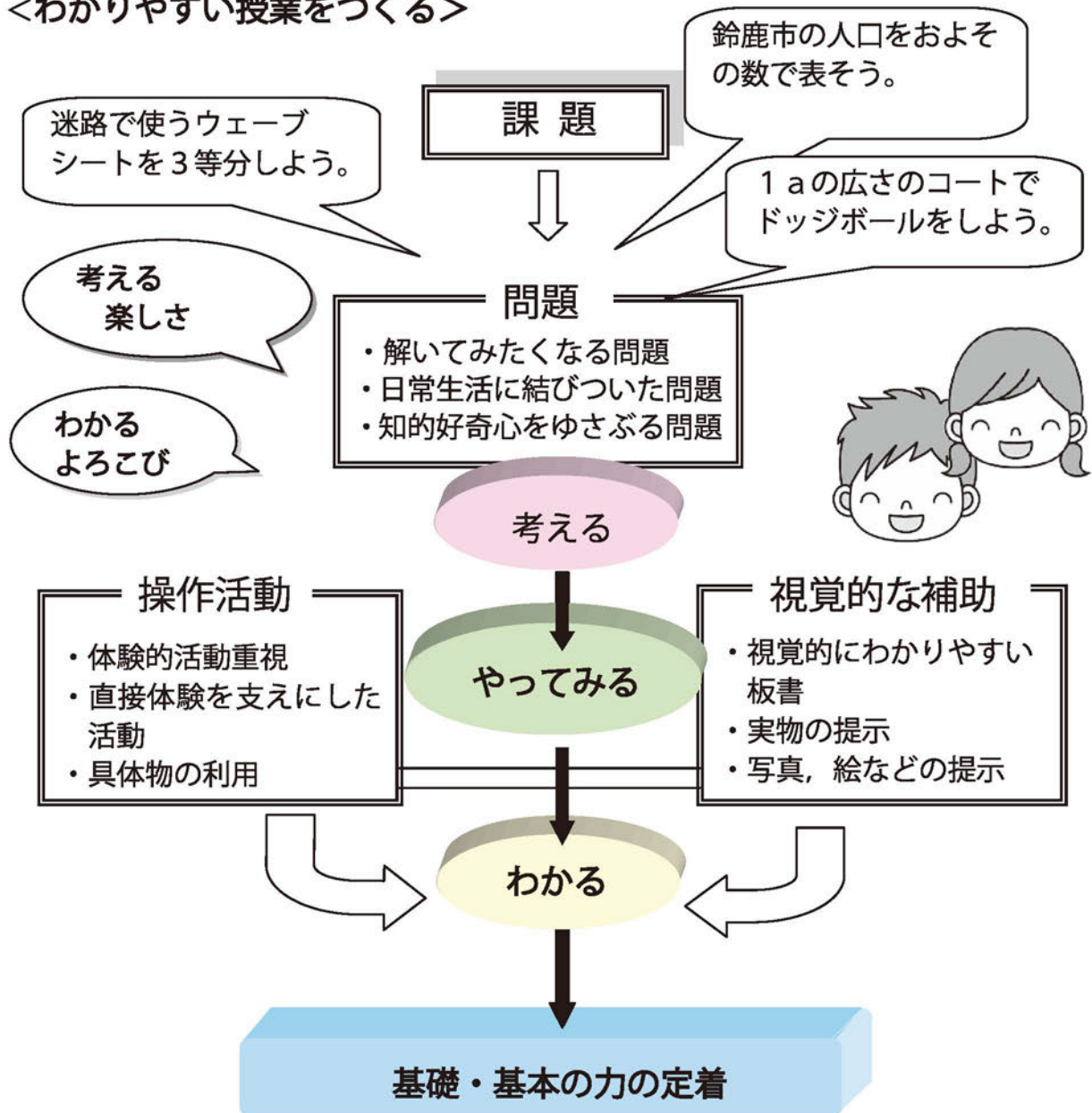
○重点目標

- わかる、できる、楽しい授業をつくる。
- 在籍学級といきいき教室の連携を図る。

○ 重点目標を達成するための具体的な手立て

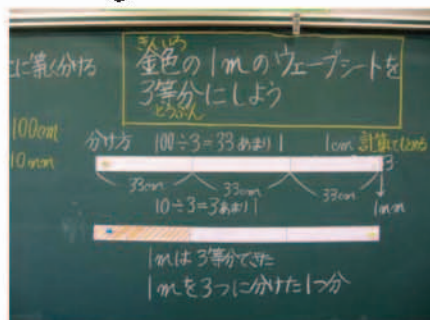
私たちは基礎的な学力を育てるために、最も大切なのは授業であると考え、まず授業づくりに力を入れていくことにした。児童が学習意欲をもって取り組み、わかる、できる、楽しいと思えるような授業づくりに取り組んでいこうと考えた。

<わかりやすい授業をつくる>



問題について

次の図画工作の時間で使うんだ。



算数の学習が子どもの興味や問題意識にもとづくものであったり、子どもが疑問に感じたことやわからないことを学習問題として設定したりすることができれば、子どもたちの学習に対する意欲がわいてくるのではないだろうか。私たちは、日常生活に密着し、子どもが思わず活動を始めたくなるような問題や、子どもの意識を揺れ動かすような問題づくりを工夫することが大切であると考えている。また、学習で得た知識を日常生活で活かす場面を意識させることにより、ものごとを数理的に見るよさを感じとらせたいと考えている。

操作活動について

1mを3等分すると、一人分はどれだけになるかな。



日本語環境での経験が少ない外国人児童や算数が苦手な児童には、実体験や具体物を学習に取り入れ、視覚的にとらえやすい工夫をすることが大切であると考えている。また、具体物・半具体物を用いて考えることで、学習に対する抵抗を少なくし、だれもが取り組みやすい活動を授業に取り入れることにしている。学年が上がるにつれて、具体物から絵や図で表す段階へとつなげ、自分の考えを表現し、伝え合う学習活動へと進めていきたい。

やったー！できた。楽しかった。

視覚的な補助について



視点児童が外国人児童の場合は、ことばを介しての理解が十分できないこともある。そこで、授業に実物や写真などを取り入れ、子どもが課題解決をイメージしやすいような視覚的な補助を大切にして授業を組み立てている。

また、視覚的にわかりやすく、児童の多様な考えがわかるような板書を工夫している。

○ いきいき教室（日本語指導教室）の取組

日本語能力に応じた指導

① リライト教材

児童の日本語の力に合わせて、全文リライト、要約リライトのリライト教材を活用している。リライト教材は、市内の日本語教育担当者ネットワーク会議で分担して作成したものをもとに、その児童の実態にあわせていきいき教室担当者が直し、活用している。

リライト教材を使い、在籍学級と同じ内容を学習することで、国語の学習内容について友だちと話す機会が増えた。教室でリライト教材を見て学習に参加したり、音読をしたりすることで、在籍学級の授業に参加できる機会が増えてきた。いきいき教室でも「先生、これ教室でもやってたよ。」「いまね、教室はここ勉強しているよ。」などと、会話にでてくるようになり、通級児童が在籍学級の学びを意識する姿がよく見られるようになった。

② レベル別プリント

児童が、指導者に頼るのではなく、自分の力を生かしてプリントに取り組めるようにと考え、レベル別のプリントを作成している。「読む」「書く」レベルが2程度の児童にはヒントとなる一言を加えたり、単語で書けるように工夫したりしている。レベルが4以上の児童には、文で書けるようなプリントを作成している。

③ 集団の中の個別支援

レベルが1～2程度の児童には、TTの体制をとり、教師の発問を繰り返しわかりやすく日本語で説明するなど、学習に参加しやすいように支援している。



在籍学級の学びにつながる日本語指導

在籍学級の授業をより理解しやすくするために、また、学習内容が定着するために、いきいき教室で算数の取り出し授業を行っている。在籍学級の担任と連携し、学習内容の先行学習を行ったり、1週間分の学習ポイントを説明したり、復習をして定着を図ったりしている。また、個人ファイルを使い、在籍学級担任から現在のその児童の様子を聞き、在籍学級の学びにつながる日本語指導ができるようにしている。

[算数の取り出し授業]



【小数の計算】



【180°より大きい角をはかる】

